

平成27年度 国立淡路青少年交流の家 教育事業 実施報告書

1 事業名

ぬしまで親子ちゃれんじ その3

～神話の島で謎ときハイキング まが玉づくりにもちちゃれんじ！～

2 日 時

平成27年10月11日（日）9：30～12日（月・祝）12：00

3 参加者 13家族 45名

4 参加者内訳

保護者 20名（男性10名、女性10名）

幼児・子ども 25名（男性12名、女性13名）

5 実施プログラムの内容

○10月11日（日）

9：30～ 受付

曇り空の中、13家族45名が2日間のキャンプに親子でチャレンジするため、土生港に集まった。



10：10～ オリエンテーション

船に乗る前の15分を使って、職員とボランティアの自己紹介をした。沼島の地図、クイズを見てもらいながら、沼島謎ときハイキングコース、注意してほしい箇所・注意点を説明した。家族ごとに真剣に話を聞き、これから向かう沼島への期待感が高まった。

10：45～ 沼島到着。謎ときハイキングにチャレンジ

沼島に到着後、ゴールの場所をみんなで確認し、4つのコースの中から家族ごとに自分たちで選んだコースに出発した。沼島の魅力を楽しんでいただけるように作った10問のクイズを解きながら、坂道がんばって歩き家族でハイキングを楽しんだ。14時半からは自由参加で八幡神社の宮司さんが語る【沼島のおはなし】を聞いた。集まった家族は、境内の中に掛けられた絵を見ながら興味深く聞いていた。おはなしの後には、子どもたちからたくさん質問が出て、子どもならではの視点からの質問に宮司さんも驚いていた。





16:30～ テント設営（4家族）にチャレンジ

沼島を離れ、国立淡路青少年交流の家に移動して宿泊棟泊、テント泊をする家族に分かれて今日の宿泊の準備をした。宿泊棟では家族でシーツを敷くなど部屋で準備をし、テント泊をする4家族は、それぞれ職員やボランティアといっしょに今夜の家であるテントを立てた。9月の「親子ちゃれんじ」にも参加しテント泊をした家族は、2回目とあって家族の中での役割分担がしっかりできていた。また今回初めてテントを立てた家族は、初めてのテントの中に入ったり、寝転がったりして、うれしそうにしている姿がとても印象的だった。



19:30～ 天体観測

沼島を離れた夕方から雲は少なくなっていったが、夜になってもまだ薄曇りであり、あまり星が見えないので、最初は講師の坂本先生から星のおはなしを聞いた。プロジェクターを使って今の季節に見えている夏の空の星座、その星の大きさを教えてもらい、その後寒さ対策をして外に出た。風が強かったので雲が流れているかと期待したがあまり星が見えなかったのが残念だった。アンケートでは天体観測が勉強になったと感想をいただいた。ここでも子どもたちは講師にたくさん質問をしていた。



○10月12日（月・祝）

6:30～ 起床 朝のつどい

朝から気持ちよくつどいに参加できた。司会、旗係、代表者挨拶も立派に役をこなし、ラジオ体操でしっかり身体を起こした。昨日の疲れは残っていないようであった。



9:00～ まが玉とブレスレット・キーホルダーづくり

まが玉とブレスレット・キーホルダーづくりを親子で協力して行った。まが玉の形は好きな形にしていよいよと言うと、昔ながらのまが玉の形、ハートや星、十字架、ひよこなどの様々な形のまが玉を作っていた。できたまが玉をトップにして釣り糸を編み、ブレスレットやキーホルダーを作った。釣り糸を編んでいる途中にビーズをいれたりして、カラフルな作品がたくさんできた。低学年の子は親子でひとつのものを作り、高学年の子は一人で一つの作品を作り上げていた。子どもたちも保護者も時間を延長してまで、夢中になって作っていた。



11:00～ 子どもたちは外遊び、保護者はお茶タイムとまが玉とブレスレット・キーホルダーづくりの続き

子どもたちはまが玉ストラップ、まが玉キーホルダーを作り終わって、ボランティアと外で体を動かすために芝生の広場へ行き「こおりおに」などをして、いっぱい汗をかいてきた。保護者の方はまが玉、ブレスレットやキーホルダーづくりの続きに没頭される方と、作品を作り終わってちょっとお茶を飲み休憩する方とに分かれた。

12:00 終了

6 参加者の声

- ・子どもたちがとても楽しそうにっていて、来てよかったなあと思いました。
- ・子どものためになり満足です。
- ・沼島に20年ぶりくらいに行けて楽しめました。まが玉づくり予想以上に楽しめました。
- ・沼島の宮司さんの話がとてもおもしろかったです。
- ・ボランティアの方が子ども一人ひとりに対応してくれて、親も気軽に楽しめました。
- ・テント泊はなかなか経験させてあげることができないので、野外活動がたくさんできるといいなと思います。

7 担当者の所感

- ・本年度の「親子ちゃれんじ」も3回目を迎えた。保護者間で口コミが広がったのか、前回に引き続き定員を上回る参加者となった。この時期としては風が強く寒いことが懸念されたが、それぞれの家族できちんと防寒しテント泊も楽しんでいただくことができた。今回は、前回に比べて親子で協力するプログラムを多くしたのが良かったのか、保護者からは「子どものためになり満足です」「子どもたちがとても楽しそうにっていて、来てよかったなあと思いました」等の声をいただいた。
- ・沼島でのハイキング、夜の天体観測、クラフト、どのプログラムも好評であった。ハイキングが楽しいという声、久しぶりに沼島を歩いてよかった、八幡神社の宮司さんの話がおもしろかった等、沼島の魅力をたくさん感じていただけた。沼島のポテンシャルは高く、次回行う場合はプログラムをもっと楽しくアレンジできると思われる。まが玉を作る、釣り糸を編むというクラフトも、はじめて体験する親子が多かったが、年齢や男女関係なく楽しんでいただけた。
- ・今回のボランティアのうち二人が、前回と同じ学生ボランティアで、その二人を覚えていた子どもたちと、受付で出会うとすぐにいっしょに遊んでいたのは微笑ましい場面であった。ボランティアの六人は子どもたち一人一人に対応するなど、細かい配慮をしてくれた。そのおかげで保護者は安心して子どもたちを預けることができ、子どもたちは時間を忘れて楽しむことができた。今回のような親子対象の企画において、職員だけでは手が回らないところをフォローしてくれるボランティアはかけがえのない存在だと言える。
- ・今後やってみたい親子対象のプログラムとして、なかなか親子だけでは体験できないカヌーなどの野外活動、専門の講師を呼んでの絵画教室、火おこし体験等が挙がっていたので、次回以降、来年の親子ちゃれんじの企画の参考にしていきたい。